

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 2月 26日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山本 吉士郎	経営	H1201029
	②	島田 きぬえ	福祉	H1901041
	③	志村 健	福祉	H2001068
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	東麻布保育園			
事業所連絡先	〒	106-0044		
	所在地	東京都港区東麻布2丁目1番1号		
	TEL	03-3584-3811		
事業所代表者氏名	園長 池口 雄一郎			
契約日	2025年 6月 20日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 9月 29日			
利用者調査結果報告日	2025年 12月 2日			
自己評価の調査票配付日	2025年 9月 29日			
自己評価結果報告日	2025年 12月 2日			
訪問調査日	2025年 12月 12日			
評価合議日	2025年 12月 12日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、WEBによるアンケート調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 2月 26日

事業者代表者氏名 麻布地区総合支所管理課長 鳥居 誠之 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)地域や保護者と協同して育つ権利を保障し、主体的な子ども集団の中で育ち合う関係づくりを大事にする 2)一人ひとりの個性に寄り添い、子どもの気持ちを大事にした保育を展開する 3)大規模園の良さを活かし、異年齢保育の中で子ども同士のあそび文化の伝え合い、思いやりや憧れを大事にする 4)行事を通して保護者との共育ちを様々な面から推し進めながら、保育園を心の故郷として感じてもらう 5)地域の様々な人たちのまなざしの中で子どもらしさを思いっきり出し、地域の中で安心して育つようにする</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの人権を守ることを第一に考え、実践している。子どもも職員同士も多様性を認め合い、コミュニケーションを大切に する。 常にスキルアップを目指すとともに、子どもたちのエピソードを語り合い、共有・共感できる職員。語り合う中で自らの仕事への 意欲と誇りを高めていく。新鮮な気持ちで研修に参加し、フィードバックを心がけ、学んだことを共有する。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>子どもの人権・多様性を認め合い、何事にも冷静に対応し、気付きを大切にすること。</p>

調査対象

全園児世帯の保護者を対象とした。
複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対しての回答をお願いした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

108

利用者家族総数(世帯)

93

共通評価項目による調査対象者数

93

共通評価項目による調査の有効回答者数

52

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

55.9

利用者調査全体のコメント

調査対象者93名のうち、52名から回答を得ることができた。
満足度の高い項目として、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っていますか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されていますか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できますか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされていますか」「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係はありますか」などがあげられる。
総合的な満足度では、46名が「大変満足、満足」、4名が「どちらともいえない」、2名が「不満、大変不満」と回答している。また、「外や屋内の遊びを工夫していて、子どもが楽しく通っています」「園全体で保育をされていて、年齢ごとの境目も少なくのびのびと過ごせています」「忙しい中でも柔軟に対応してくれるので助かります」「お知らせなどを、もう少し早く配布していただくと助かります」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	50	1	1	0
50名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「広い環境での保育に子どもたちの学びが多いと思います」「プログラムや催し物が多く、子どもがたくさんのものを吸収しているようです」「集団での活動の中で成長していると感じます」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	45	6	0	1
45名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「保育園で遊んだことなどよく話してくれます」「体を動かす活動も多く楽しそうです」「食育で学んだ食材を家でも積極的に食べています」などのコメントがあがっている。				

3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	2	0	2
48名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「子どもはとにかくおいしい、と話しています」「バースデーご飯を子どもは楽しみにしています」「月齢や成長に合わせて食事の量を調整してもらえると助かります」などのコメントがあがっている。				
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	41	9	1	1
41名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「生き物をみんなで育てているのはすごく良いと思います」「お祭りなど地域と密着したイベントがあり嬉しいです」「戸外活動を増やしてほしいけど、夏は暑いので難しい面もあるかと思っています」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	39	4	0	9
39名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。保育時間変更への柔軟な対応が概ね図られている様子がうかがえる。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	41	9	0	2
41名が「はい」、9名が「どちらともいえない」と回答している。また、「たぶん大丈夫だと思います」などのコメントがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	43	6	0	3
43名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。行事日程における配慮が概ね図られている様子がうかがえる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	46	4	1	1
46名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「親身に相談を受けてくれます」「先生が忙しそうなときは遠慮しています」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	45	6	0	1
45名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「十分に整備されていると思います」などのコメントがあがっている。				

10. 職員の接遇・態度は適切か	43	7	2	0
43名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「ユニークな服装の職員さんも多く親しみやすさを感じます」「言葉遣いが気になることもありました」などのコメントがあがっている。				
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	5	1	0
46名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「少しの変化にも気づいて教えてください」「ケガをした際は迅速な対応でした」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	35	10	0	7
35名が「はい」、10名が「どちらともいえない」と回答している。また、「必要な点は的確に対応されていて安心です」「言葉で伝えることが難しい月齢の子どもへの対応をもう少し検討してもらえると助かります」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	5	0	1
46名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「子どもの活動への参加の意思確認など、細やかに対応してくれています」「最大限寄り添ってくれていると感じます」などのコメントがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	4	1	5
42名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。プライバシー保護が概ね図られている様子がうかがえるほか、「書類やパソコンなどの置き場についてもう少し検討してもらえると良いと感じます」などのコメントがあがっている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	45	5	0	2
45名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「お迎えの時にいつも様子を伝えてくれます」「時間帯によって職員が少なく話を聞きづらいときもあります」などのコメントがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	34	9	1	8
34名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「さらに臨機応変に対応していただけるとありがたいです」とのコメントがあがっている。				

17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	26	8	5	13
26名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。また、「職員の対応に安心感があり、そのような機会がありません」「しおりに掲載されています」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	一人ひとりの子どもの「最善の利益」を目指して、園の運営を行っている 東麻布保育園は、区立認可保育園として、指定管理者である労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団が運営している。園では、保育理念・方針・目標を定め、これに基づいて保育を実施している。職員に対しては、保育姿勢を明確に示し、年度当初の説明会、定期的な会議、掲示等を通じて周知を図っている。また、新規採用職員や中途採用職員には、入職時研修において理念や方針の説明を行っている。保護者に対しては、入園説明会において配布する「入園のしおり」を通して園の考えを伝え、ホームページ、園内掲示等によって情報提供を行っている。 園長は組織のリーダーとして先頭に立ち、その役割を発揮している 園長は、常に港区及び法人本部の方針を念頭に置き、園運営の先頭に立ってその職務を遂行している。当園は、在園児を対象としたスターライト保育を実施するとともに、指定園として休日保育及び年末保育を行っている。このため、職員配置やシフト調整、職務分担の決定にあたっては、職員一人ひとりの希望や特性を把握し、責任者及びリーダーが中心となって調整を行っている。職員育成については、計画的な人材育成に配慮し、年度計画や各プロジェクトの推進を統括している。当園は地域との交流を大切にし、組織としてその推進に関与している。 園の運営を進めるために必要な案件を審議し、決定する手順が決められている 園内の会議体系は全職員に周知されており、重要な決定事項は責任者会議において起案し、職員会議で検討している。内容に応じて、乳児会議・幼児会議・クラス会議等で十分に協議し、決定のうえで全体へ周知している。法人運営に関わる事項は法人本部を通じて理事会に諮っている。港区からの通知は園長を経由して職員及び必要に応じて保護者に周知している。これらは、文書、配信、掲示、保護者会等で伝達し、決定に至った背景についても説明している。各会議の内容は職員会議で報告し、議事録は閲覧・確認が可能となっている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>園に対するニーズを捉え、保護者や職員の意向を把握して課題を見出している</p> <p>当園に対するニーズを的確に把握するため、園内外を取り巻く多様な情報を収集し、課題の抽出に努めている。保護者には、各行事終了後にアンケートを実施し、保護者面談や保護者会を通じて寄せられる意向を誠実に受け止めて、課題把握に役立てている。職員に対しては、ヒアリングや意向調査を実施し、職員が意見を述べやすい雰囲気づくりに努め、グループ討議による活発な意見交換が行われるよう配慮している。加えて、地域の行事や各種会議へ積極的に参加し、地域の動向や必要な情報の収集に努めている。</p> <p>事業計画書を作成し、年度ごとの事業方針を職員に周知している</p> <p>港区が策定する「港区地域保健福祉計画」が目指す中期的な方向性及び、公募時に提出した提案書の内容を踏まえ、年度事業計画書を作成している。事業計画書には、運営規程を基本として、職員体制や全体的な計画を盛り込んでいる。さらに、避難訓練計画、行事予定、研修計画等を含め、計画的な園運営を図っている。園のしおり(重要事項説明書)は年度ごとに改訂し、職員に周知・共有した上で、入園説明会等を通じて保護者に周知している。また、園運営に必要な経費については見積書を作成し、区と協議を行っている。</p> <p>着実な計画の実行に向けて、各クラス、行事担当者が計画を立案し、全員で共有している</p>		

指導計画の作成には、「保育所保育指針」を踏まえ、「全体的な計画」に基づいて作成している。その際、クラスリーダー及び乳幼児リーダーを中心に、各専門職の意見を取り入れ、子どもの実態や発達状況を反映した案を作成している。この計画は責任者会議で検討した上で、職員会議で共有している。また、期・月・週単位で進捗管理を行い、計画の着実な実行を確認している。行事及び訓練等の計画については、前年度の反省を踏まえ、担当者が実施案を作成している。進行状況は職員会議の議題として取り上げ、認識の共有を図っている。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

保育に求められる法・規範・倫理の遵守のため、子どもの権利条約を学んでいる

職員が保育に従事するための規範として、「子どもの権利条約」及び「保育所保育指針」に関する資料を職員に配布し、職員会議の議題に位置付けて継続的な学習を行っている。また、当園は港区の指定管理者制度の下で運営していることから、区が実施する「労働環境モニタリング」により、安定的なサービス提供に向けた指標の確認及び整備を行っている。さらに、法人内の他事業所による相互監査を実施し、法人全体としてのサービス品質の向上に向けた取り組みを行い、成果を上げている。

子どもの気持ちを傷つける言動を防ぐため、保育指導チェック表を活用している

子どもの人格及び人権を尊重するため、職員は保育指導チェック表を活用し、自らの言動について定期的に振り返りを行っている。虐待の疑いについては、登園時の視診、着替え時の確認、日常の言動観察等により早期発見に努め、疑いがある場合は速やかに外部機関へ相談する体制を整えている。苦情解決の仕組みについては、保護者に入園面接時の重要事項説明書による説明と掲示を行っている。また、意見箱の設置や日常的な声かけも大切にしている。苦情は担当窓口が関係機関と協議の上、迅速かつ誠意をもって対応し、法人内で情報共有を行っている。

地域とのつながりを重視すると同時に、次世代の保育従事者への支援を行っている

当園は歴史ある小学校跡地の建物を活用した施設であり、地域住民の想いを大切にしながら運営している。地域町会も参画する運営委員会を開催するとともに、施設を活用した地域行事や総合防災訓練・防犯訓練に積極的に参加している。また、子育て支援において、当園の専門性を活かした取り組みを行っている。高校生の職場体験の受け入れを実施して、次世代の従事者の支援をしている。区や地域の各種会議への参加、法人が行う地域子育てフェスタ等への参画、街づくり協議会への参加を通じ、地域との連携強化と開かれた園づくりを推進している。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>園における「安心・安全」の妨げになるリスクを検討し、対策を講じている</p> <p>「園で想定されるリスクは何か」を常に意識し、安全確保に向けた取り組みを継続的に実施している。感染症発生時に迅速に対応できる体制の整備をはじめ、子どもたちに突発的に起こりうる、嘔吐処理・誤飲・誤嚥・アナフィラキシー・熱性けいれんなどの理解と、適切な対応のため、全員が訓練を受けている。また、午睡時のSIDSに対する対応は規定に従って行っている。また、事故発生時の対応手順の確認、ヒヤリハット事例の分析による要因把握と事故の未然防止及び園外での危険個所の発見に努めている。さらに他の施設での事例も共有している。</p> <p>様々な場面を想定した避難訓練及び不審者侵入訓練を定期的に行っている</p> <p>園では、消防の指導による避難訓練は、年度計画を立てたうえで実施し、記録と振り返りを通して課題を共有し、次回に反映させている。また、警察の指導を受けながら実施する不審者侵入を想定した訓練では、訓練終了後に警察から講評を受けている。さらに、日常的に危険個所の点検を行い、安全衛生委員会の主導による、注意喚起を行っている。また、大規模な自然災害に備えて、備蓄品の点検や入れ替えを定期的に行っている。港区の指針に準拠して、業務継続計画を策定し、公共サービスの停止により事業の継続が困難になった場合の運営方法を定めている。</p> <p>個人情報の保護について、保育を運営する上で重要な課題として取り組んでいる</p> <p>当園では、法人が定める個人情報保護に関する各種規程に基づき、法人担当部門が運用方法を一元的に管理している。管理に当たっては、港区の個人情報保護制度を踏まえた適正な取扱いを徹底している。個人情報の取扱方針については、重要事項説明書に明示し、入園説明会において保護者に説明を行い、同意も得ている。また、区の指導に基づくマニュアル及び法人内マニュアルを職員に周知しているほか、情報セキュリティマニュアルに沿った運用(書類の保管、電子ファイルのアクセス制限など)と法人内研修を通じ、職員の意識向上を図っている。</p>		

5			カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリ-1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

職員の採用は本部と園が協力して行い、学校訪問、求人サイトなどを利用している

当法人は東麻布保育園の指定管理者として9年目を迎えている。以来、「持続可能で活力ある地域社会に資することを目的」の実現のため、多世代の職務経験者で構成された職員体制を目指している。職員の補充は、求人サイトや就職フェアへの参加、学校訪問、ホームページを利用して情報を収集し、応募を募っている。また、法人からの人事異動も行っている。応募者には、法人が目指す「多様な働き方を実現し、地域の課題に取り組む」を説明し、職員としての意義を説明している。同時に、多彩な研修計画によるキャリアアップの仕組みを説明している。

職員の定着を図るため、それぞれのキャリアプランを描ける体制を整えている

当園は長期的な展望に基づく人材育成方針を明確にし、各職員がキャリアプランを描ける体制を整えている。年度当初には任務分担及びクラス編成を決定し、その役割を周知している。管理層は面談によって、年度目標や研修に関する要望を把握し、キャリア形成に資する研修受講を支援している。港区主催の研修をはじめ、外部研修、園内研修、法人研修、WEB研修等を計画的に実施し、非常勤職員も動画視聴等による参加とし、配慮をしている。研修参加が可能となるよう勤務シフトに反映し、多様な働き方を尊重した働きやすい職場づくりを推進している。

法人及び園は職場を働きやすい環境にするため、様々な取り組みを行っている

当園は、区立保育園として、利用者の安心・安全の確保及びサービスの維持・向上を図っている。そのため、労働環境に関する着眼点を常に意識した運営を行っている。職員の心身の健康保持に向けては、休暇及び時間外勤務の適正管理を行い、全職員を対象としたストレスチェック研修の受講、産業医による助言を実施している。また、会議では多くの職員が発言できるよう工夫し、日頃の気づきを共有しやすい雰囲気づくりに努め、各自がエピソードを述べ合い、共通認識を深めている。これらの取り組みにより、人間関係や職場環境の改善を図っている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

当園では、各法令遵守に対する理解を一層深め、具体的な保育実践やエピソードと結び付けて分かりやすく伝える工夫が課題である。また、人権・安全・健康を最優先とした保育や、保護者の思いに寄り添う姿勢について、職員間での共有と意識統一をさらに進める必要がある。その背景には、子育てを取り巻く状況の変化により保育の役割が重要性を増し、職員一人ひとりの理解と意識変革、主体的な取り組みが求められていることがある。これらの課題に対し、各種研修への参加内容を園内で共有し、環境変化に応じた保育園の役割を再認識するとともに、学んだ内容を保護者にも分かりやすく伝える取り組みを行ってきた。その結果、会議やエピソードの振り返りを通じて園及び法人理念の共有が進んだ。一方で、保育実践の継続には職員の定着が不可欠であり、特に新規採用職員が多い中、理念や保育観のすり合わせには時間を要している。今後も、対話を重ね、何でも話し合える職場風土の醸成に努めていく必要がある。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

各法令遵守の理解を深め、具体的な保育実践やエピソードと結び付けて分かりやすく伝えようとする姿勢が見られる。また、人権・安全・健康を最優先とした保育や、保護者の思いに寄り添う姿勢について、職員間で共有し意識統一を図ろうとする取り組みは評価できる。研修で得た学びを園内全体で共有し、保護者へも分かりやすく発信している点は、園及び法人理念の浸透につながっている。一方で、新規採用職員が多いことから、理念や保育観の共有には時間を要しており、職員の定着と継続的な対話の場の充実が今後の課題である。引き続き、職員が意見を発信しやすい職場環境づくりを進め、研修で得た学びを職員全体で共有し、新規採用の職員の育成を行うことに期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

当園は、すべての人に開かれた施設として、多様な要望に寄り添った保育を提供する必要があるという認識の下、様々な育ちの違いを互いに認め合い、インクルーシブ保育を推進している。その結果、園及び法人の理念や方針が保護者・地域・自治体に着実に伝わり、園運営に対する理解を得られている。特に、日常的な子どもの具体的なエピソードを職員間で共有し、事例として取り上げる機会を多く設けていることが、理念の浸透に寄与している。今後は、子どもたちのエピソードがどの程度保護者に伝わっているかについて、日常的な会話や面談、保護者会、アンケート等を通じて検証し、その結果を次年度の保育運営に反映させる。また、ホームページやドキュメンテーションを活用し、保育実践の発信と共有を一層充実させていく予定である。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

当園は、すべての人に開かれた施設として、多様な育ちの違いを尊重し、インクルーシブ保育を推進している点が評価できる。日常的な子どもの具体的なエピソードを職員間で共有し、事例として取り上げる取り組みは、園及び法人の理念や方針の浸透に効果的であり、保護者や地域、自治体からの理解につながっている。今後は、これらのエピソードがどの程度保護者に伝わっているかを、面談やアンケート等を通じて検証し、結果を次年度の保育運営に反映させることが期待される。また、ホームページやドキュメンテーションの活用をさらに進めることで、保育実践の可視化と共有が一層充実するものと考えられる。日常の保育をエピソードとして職員間で共有し、その実践を保護者へ伝え、その検証を繰り返し行うことで、園が目指すすべての人に開かれた施設となることに向けて取り組みを重ねていくことに期待したい。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学が合った場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>保育内容等に関する情報提供を通じて、園に対する信頼が高まるように努めている</p> <p>ホームページでは、子ども一人ひとりの存在や育ちを尊重し、地域全体で子どもを中心に考える視点を広げていくことを園の役割として発信している。これは、日々の保育実践や行事参加を通じて、子どもの姿や成長の価値を、保護者のみならず地域住民との理解共有を図っていることに由来している。また、旧小学校跡地という地域に長年親しまれてきた場所に立地しているため、歴史的背景や地域の思いを大切に受け止めながら、地域に開かれた保育を地域との関わりの中で実践している。こうした取り組みを通じて、園に対する信頼が高まるように努めている。</p> <p>ホームページを確認した上で来園する見学者が多いため、一層の充実を目指している</p> <p>入園案内は、区のホームページや入園案内を通じて行われており、当該園もその一園として情報提供している。園独自のパンフレットは主に園内配布としているが、見学希望者は年間を通じて多く、特に4月入園前の9～11月には50～60名程度の見学があり、ホームページを事前に確認したうえで来園するケースが多い。こうした状況から、ホームページが重要な情報源として機能しているといえる。今後は少子化を見据え、園の保育方針や環境の価値を丁寧に言語化し、情報発信を強化していく意向である。</p> <p>園の理念や歴史を丁寧に伝える見学を通じ、家庭との信頼関係を築いている</p> <p>園では、子どもの主体性や「やりたいことを尊重する」という保育理念について、園の成り立ちや地域、小学校との歴史的関係性を踏まえ、見学時に丁寧に説明している。見学会は毎月実施し、希望に応じて個別対応や夕方時間帯の見学も行うなど、家庭の状況に応じた対応を行っている。説明には質疑応答や個別相談を含め、保育の考え方や日常の様子を十分に伝えている。実際に見学を経て入園した家庭は、園の方針に納得したうえで園生活を開始できている。見学は入園前の重要なインテークとして機能しており、園と家庭との信頼関係を築く基盤となっている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>しおりに基づく入園面接を通じ、多職種が子どもの状況等を丁寧に把握している</p> <p>入園面接は、園が作成した「しおり」に基づき、順序を踏みながら丁寧に実施している。はじめに、園が地域の中で果たしてきた役割や、園全体で大切にしている保育観を共有したうえで、具体的な運営内容について説明している。延長保育については、制度の趣旨や利用条件を分かりやすく伝え、誤解が生じないように配慮している。あわせて、看護師が既往歴やアレルギー等を確認し、担任保育士が生活リズムや身辺自立の状況を把握するなど、園長を含めた多職種による体制で子どもや家庭の状況を多角的に把握している。</p> <p>新入園児の情報を職員間で共有し、家庭の状況に応じた慣れ保育を柔軟に行っている</p> <p>子どもの状況や家庭背景に関する情報について、職員間で共有できるようにしている。新入園児に関する各種記録について、園長・副園長及びクラス職員が連携して共有を図っており、必要な受け入れ体制を整えている。一方で、経験の浅い職員を中心に、主体的に情報を得ることの必要性があるため、今後の育成課題として取り組んでいく予定としている。慣れ保育については一律の期間を設けず、子どもの様子や家庭状況を踏まえ、保護者と相談しながら柔軟に決定している。子どもや保護者が、安心して園での生活を開始できるようにしている。</p> <p>小学校との連携を模索しつつ、卒園後も子どもや保護者との関係性を大切にしている</p> <p>小学校との連携については、現状では体験活動が中心となり、教員同士が保育観や子どもの育ちについて十分に意見交換する機会は限られている。園では、子どもの主体性や自ら考える力を育む保育を大切にしており、その点について小学校側と共有していくことが今後の課題としている。一方、園児は必ずしも同一校へ進学するわけではないため、一律の接続支援が難しい側面もある。その中でも、卒園児や保護者が卒園後も相談や来園が続くなど、園との関係性は良好に継続している。併設する学童クラブに卒園生が訪れ、成長した姿を見守れる点も特長である。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
0・1・2歳児の個別指導計画を日々の保育実践と結び付け、主体性を大切にしている 0・1・2歳児の個別指導計画については、年齢や発達段階を踏まえて丁寧に作成しながら、日々の保育実践との結びつきをより高めていくことを目標としている。現在、副園長や主任が中心となり、記録や連絡帳の内容を通して、子どもの行動の背景や気持ちに目を向けた捉え方ができるよう指導を行っている。特に、発達段階に応じた関わりや、子どもの主体的な行動を尊重する保育の視点を具体的な事例とともに共有することで、職員の理解を深めることに努めている。適切に見守る中で、子どもの主体的な学びや意欲を大切にしている。		
3歳児以降の指導計画を柔軟に見直しながら、子どもの興味・関心を高めている 3歳児以降の指導計画の実践においては、月案・週案を基本としつつも、形式にとらわれ過ぎることなく、子どもの姿や発言を丁寧に捉えながら柔軟に見直ししている。特に5歳児クラスでは、日々のミーティングを通じて状況に応じた計画の見直しを行い、子どもの興味や育ちを次の展開につなげている。行事を一つの軸としながらも、野菜の栽培、コンポスト活動など、年間計画に想定されていなかった内容でも、子どもの興味や関心が高いことを積極的に取り入れている。園全体として現場の提案を受け止め、挑戦しやすい環境が整っている。		
複数回の打ち合わせと振り返りを重ねながら、子どもの姿を共有し保育観を深めている		

情報共有の質を高めるため、日常的に複数の打ち合わせの場を設けている。朝8時半には早番職員、看護師、管理職が集まり、その日の予定や保護者からの連絡事項、特記事項を確認し、内容は朝礼ノートに記録している。さらに午後2時には昼礼を行い、当日の活動の様子や子どもたちの状態、今後の対応について改めて共有している。加えて、月1回実施している「振り返り」では、職員が子どもとの関わりの中で得た気づきや印象的なエピソードを自身の言葉で記述し、子どもの捉え方や保育観を可視化する機会としている。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報を厳格に管理し、職員・保護者対応でもプライバシー配慮を徹底している 個人情報保護を重要な運営課題と位置づけ、日常業務の中で具体的かつ実効性のある管理を徹底している。児童記録や家庭状況調査票などの重要書類は、必ず施錠可能な場所で保管し、パソコンやカメラ等の情報機器についても、業務終了後は金庫等へ収納している。新規職員やボランティアに対しては、情報管理に関する確認書への署名を求め、責任意識の共有を図っている。保護者対応においては、当該児童本人の情報に限定して伝達し、配慮が必要な内容については場所や方法を選んで対応するなど、プライバシーへの配慮を徹底している。</p> <p>性教育を契機に、発達段階に応じた保育と家庭連携による継続的な取り組みを進めている アンケートを契機に実施した性教育研修は、保護者・職員双方から高い関心と評価を得ている。関心が高いテーマであることを踏まえ、専門講師を招き、3歳児・5歳児それぞれの発達段階に応じた内容で実施し、職員も参加した。現在は看護師を中心に、性教育に関する絵本を各クラスで活用し、日常の保育の中で継続的に子どもへ伝えている。性教育を一過性の取り組みとせず、職員の意識向上を基盤に、子どもが自ら身を守る力を育むことを目的として、保護者と連携しながら継続的に取り組んでいる。</p> <p>子育て指針を基盤に、権利擁護の視点を日常の保育や記録に落とし込んでいる 法人として策定した「子育て指針」を会議や掲示を通じて共有し、抽象的な理解にとどまらないよう、具体的な場面を想定した説明や資料配布を重ねている。現在はチェックリストを活用し、職員自身が日常の言葉かけや関わりを振り返る仕組みを整え、権利擁護の視点を実践につなげている。また、記録の書き方についても、保護者や子どもへの影響を踏まえた表現を意識するよう指導している。こうした取り組みを通じて、国籍や文化の違いに関わらず、すべての子どもを尊重する保育の質向上を図っている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>多様な業務に対応するマニュアルを整備し、必要時に速やかに確認できるようにしている</p> <p>業務内容の多様化に応じて、苦情対応、事故、食事、疾病、情報管理などの各種マニュアルを整備しており、その量は多岐にわたっている。ファイル管理や画面操作、情報管理に至るまで詳細に整理されているが、日常的にすべてを参照することよりも、職員がマニュアルの存在と保管場所を把握し、必要な場面で速やかに確認できるようにすることを重視している。業務内容や建物仕様の変更に伴う更新についても適宜周知を行っている。</p> <p>保育制度の変化を捉え、家庭状況を尊重しつつ子どもにとって最善の育ちを支えている</p> <p>保育制度の動向を社会的背景として捉え、「誰でも保育を受けられる」流れを、保育の役割が社会に認知されてきた結果として前向きに受け止めている。保護者の働き方の多様化により生活リズムが変化する中であっても、それを一方的に課題とするのではなく、家庭ごとの状況を理解したうえで、子どもの発達にとって必要な視点を丁寧に共有する姿勢を大切にしている。家庭支援においては「子どもがかわいそう」という見方に陥らず、「子どもにとって最善は何か」を軸に関わり、園で安心して過ごせる環境づくりを重視している。</p> <p>遊びに根ざした保育の価値を共有し、職員が自ら語れる力を高めている</p> <p>園が目標とする保育を実践するためには長期的な視点が不可欠であり、理念の理解と定着には時間を要するものと認識している。そのため、ホームページや見学时、職員の自己チェック等の機会を通じて丁寧に説明を行ってきた。また、保育園は子どもを預かる場にとどまらず、子どもが愛されながら育つ喜びや、子どもと共に過ごす時間の価値を地域に伝える役割を担っている。遊びの中で育まれる学びや成長を具体的に言語化し、職員一人ひとりが自らの保育を語れる力を高めながら、今後はその外部への発信も強化していく意向である。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>日々、異年齢が自然に関わる保育環境に努め、相互の育ち合いを育んでいる</p> <p>園では、計画的な異年齢保育を立案していないが、日常の中でクラスにとられない交流や、自由に遊べる環境設定に取り組んでいる。例えば、5歳児と3歳児が手をつないで近隣の公園に散歩に行ったり、5歳児が乳児クラスへ行き世話をしたり、自然な交流を意識的に増やしている。親しくなったクラスや遊びたいクラスへ行きたいという声をクラス間で共有し、居場所の把握を行い、行き来を見守っている。また、えんにちごっこ行事やイベント等につなげ、皆で一緒に楽しむ経験や、憧れの気持ちと優しく接する気持ち等、相互の育ち合いを大切にしている。</p> <p>子ども同士が文化や個性の違いを認め合い、思いやる心が育つように配慮している</p> <p>外国籍の子どもが増える中、遊びや生活を通してお互いに、身振り手振りや片言の単語で伝え合おうとする姿が見られる。保育士は、子ども同士が一人の人間として関わる姿を見守りながら、困り感を把握し個別の支援で、集団生活に沿う配慮をしている。日々の積み重ねで、言葉の理解が進み、保護者に通訳して伝えたり、同じ言語の新入園児の仲介をするなど、順応する姿が見られる。また、個別配慮を要する子どもには、専門職の巡回相談を受け、無理なく集団生活に沿うように援助している。園全体でも「人権」を意識した保育実践について話し合っている。</p> <p>子どもの成長に寄り添い、いろいろな経験を積み重ねて学んでいく事を大切にしている</p> <p>子ども同士、気持ちのぶつかり合いやトラブルになった時は、発達に応じて相互の気持ちを聴き、気付きや考えることの促しに努めている。乳児の噛みつきは、発生状況や原因を考察し具体的な改善を行っている。例えば、少人数のグループや遊びのコーナー作りを行うことで、自分の遊びに集中できトラブルが減少している。幼児は、保育士が話を十分に聴き、互いの思いを言葉で伝え合う支援をしている。振り返りを促す中で自分たちで考える姿を見守り、解決する力を積み重ねている。年長児は、チクチク言葉フワフワ言葉を学び、自分で言葉遣いを考えている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭と園が連携して子どもの健康や心情を共有し、生活の安定を図っている</p> <p>朝夕の送迎時には、連絡アプリや保護者と口頭で確認を行い、個々の様子を把握している。朝夕の当番保育士と担任間で引継ぎを行い、家庭からの伝達事項や心身の配慮事項等、当番表や各クラスの伝達票の活用で、伝達漏れを防いでいる。特に、迅速に全体で共有したい情報は、朝礼や昼礼で伝えている。日中、怪我やトラブル等があった時は、担任が直接保護者に伝える事で、子どもの心身の安定につなげている。また、お迎えが保護者でない時は、電話で伝えている。個々の、子どもの育ちや配慮については、全体会議で伝え共有を図っている。</p> <p>基本的な生活習慣が身に付くよう、月別個別計画で共有し自立へつなげている</p> <p>乳児は、月別個別計画で年齢発達の様子を把握し、食事や睡眠、衣類の着脱、排せつ等、生活習慣が身に付くように具体的な援助の共有に努めている。家庭との連携を大切に、食事面では栄養士、健康面では看護師と共に、送迎時や連絡アプリで確認している。自分での気持ちを大切に、子どもが脱ぎ着しやすいうように手作りの箱椅子を置いたり、少人数で個々のペースを見守れる時間のゆとりを持つなど、保育構成に配慮した援助をしている。排せつでは、発達に応じて、トイレの環境に親しむ経験を積み、排せつできた喜びを自信につなげる等を、家庭と共に進めている。</p> <p>長時間保育に配慮して、個々の生活リズムに応じた休息や午睡の体制を整えている</p> <p>日々、連絡アプリで個々の生活状況を把握し、体力や体調に応じた環境を整えている。静かな落ち着いた空間で、安心できる環境と時間の配慮に努めている。SIDS予防は午睡チェック表で行い、仰向け寝や呼吸、顔色等を確認し安全を図っている。幼児は、食事から睡眠への生活の流れに留意して、部屋の移動前に絵本や紙芝居等を見て、気持ちの切り替えを促している。年長児は、年度途中より午睡を無くし、就学後の生活リズムに慣れるようにしている。目覚めた子どもは、まどろんだり布団から離れて過ごしたり、自分で行動を選ぶ自主性を大切にしている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>乳児期から、年齢発達に応じた遊びの環境作りを、園全体で取り組むことを期待したい</p> <p>「遊びの環境」の研修を職員会議で共有し、クラス毎に主体性を育む玩具環境作りに取り組んでいる。幼児は、コマやけん玉、ごっこ遊び、構成遊び、机上の遊び等、コーナーの工夫で、自由に遊びを選択する環境構成を図っている。コマやけん玉、ブロック等、個々の遊びが継続できるように配慮し、根気よく創り上げる力を育てている。乳児は、可動式遊具棚でコーナーを作り、少人数で落ち着いて遊ぶ空間や居場所作りをしているが、0歳児は常設の玩具の種類や数が少ない。子ども自ら玩具に手を伸ばして関わられるような、玩具の充実を望みたい。</p> <p>子どもの思いや声を聴く事を大切に、子どもが身体や言葉で表出する力を大切にしている</p> <p>日々の保育にリズムやリミックを計画的に取り入れ、子どもが音楽に合わせて身体表現を楽しむ活動をしている。また、廃材で自由に制作できるように、ハサミやセロテープ等の使い方のルールを決め見守っている。日頃から、子どもの声を聴く姿勢を持ち、こども会議での願い事を週案に反映させる等、意見を受止めている。例えば、散歩先を決めたり、給食室の見学ツアーなどにつながっている。各保育室に絵本棚があり、読み聞かせを多くしているが、乳児期は、好きな絵本を自分で手に取り、保育士と子どもが同じ視線で、絵や言葉に親しむ環境を望みたい。</p> <p>戸外遊びや散歩先で季節の変化に触れ、自然物に関わる経験を豊かにしている</p>		

園付近はビル街だが、自然豊かな公園や神社に散歩に出かけ、四季の植物に触れたり昆虫を見つけ、発見や探索を楽しんでいる。どんぐりや紅葉を持ち帰り、制作やままごと遊びに取り入れている。園庭でアゲハ蝶の幼虫を見つけたり、近隣の小学校からカブト虫の幼虫を貰い、クラスで成虫になるまで飼育している。変化の様子を観察し、喜び合ったりする姿が見られている。プランターでは、綿の種蒔きから栽培を行い、綿の実りを経験した。今後、綿の種を収穫し、来年の栽培につなげる予定がある。昆虫や植物の生命の循環に触れ、探求心を育んでいる。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日常の保育を行事につなげ、子どもたちが主体的に取り組むように支援している</p> <p>園では、外部講師による「運動遊び」プログラムを継続する事で、鉄棒や跳び箱、縄跳等を子どもたちが段階的に習得している。日頃の運動遊びやリミック等で、身体を思いきり使って表現する楽しさも積み重ねている。年長児は、運動会で自分の得意な運動遊びを決め、大勢の保護者に見て貰う経験を自信につなげている。また、恒例の南中ソーラン節を、クラスの仲間と共に取り組んでいる。年長になったらできる期待と憧れを持ち、繰り返し練習を行ってきた。当日は、法被を纏い仲間と気持ちを合わせ、力を出し切った経験が、満足感や達成感となっている。</p> <p>伝承行事や季節行事の豊かな経験を、日々の遊びや活動の広がりにつなげている</p> <p>伝承行事では、由来に触れた飾りつけを行ったり、食と共に成長を祝う日に行っている。地域行事では、春の山車引きや夏のお祭り、縁日ごっこ、秋のかかし祭り等、季節毎に参加している。縁日ごっこは、子ども達がお店作りを考え、「やりたい」という意欲を大切に、具体的な支援に努めている。日頃のビーズ遊びや制作遊びを活かし、たこ焼き屋やかき氷、アクセサリー屋等を開き、0歳児から招待して売り買いを楽しんでいる。この経験が、手作りのクリスマス飾りを「作りたい」という意欲につながり、スポンジでスノードームの制作に取り組んでいる。</p> <p>保護者に、園や地域と共催する行事の情報を伝え、保育の理解を図っている</p> <p>年度の初めに、園での行事・お誕生日会予定表と地域の行事参加予定表を保護者に配布し、日程等を知らせている。保護者が参加する行事は、園だよりやクラスだより等でも伝え、日程調整の協力を依頼している。行事に取り組む子どもの様子は、日々のクラスだよりや写真の掲示等で伝えている。特に、エピソードを添えて心情面も伝える事を大切にしている。当日の姿や結果だけでなく、準備やその後の成長の姿も共に喜び合える発信に努めている。保護者アンケートでも行事の項目を設定し、ねらいの達成や評価を行い、意見や要望を次年度につなげている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の中で子どもが気分転換を図り、自由に遊べる環境を配慮している</p> <p>乳児は、夕方の延長保育になるまでクラス別保育を行い、慣れた保育室や保育士のもとで過ごし、安定した保育体制を整えている。幼児は、おやつ後の室内遊びから、クラスの枠にとらわれず自由に行き来して、動と静の活動や気分転換できる環境の配慮をしている。好きな遊びを見守り、ブロックや制作等、個々に集中して創り上げる根気や喜びを大切にしている。遊びの継続ができるように、個別のトレイを準備している。延長保育では、異年齢合同で過ごし、保育士が安全面や年齢や興味・関心に応じて、専用の玩具を用意している。</p> <p>長時間園で過ごす子どもが安全に一日を過ごせるよう、環境作りと援助に努めている</p> <p>夕方の保育は、補食ありの延長保育、その後夕食ありのワンモア保育、最後に22時までのスターライト保育と、保育形態を分け異年齢合同保育を行っている。全クラスが一緒に遊ぶため、誤飲を防ぐ適切な大きさの玩具を設定し、情緒面の変化に応じて抱っこ等のスキンシップを取っている。1日の疲れが出てくる時間帯のため、畳の部屋にゴザや布団を準備し、ごろりと横になれる家庭的な雰囲気大切にしている。補食や夕食は、保育室隣の部屋で食べ、遊びと食事を分けている。アレルギー対応食は、トレイを別にして誤食を防ぐようにしている。</p> <p>当番保育士を固定し、異年齢の子どもたちが自然な関わりで過ごせる環境を整えている</p> <p>延長保育以降の保育士、補助職員は、年間を通して固定にする体制を整えている。子どもは、日々顔なじみの職員がいる事で、安心して甘えを出し膝に座るなど職員と関わることができ、心身共にくつろげる環境を作っている。当番保育士は、フリーという立場で、日中はクラスの枠を超えて保育に入り、個々の子どもの発達と具体的な援助を担任と共有している。また、好きな遊びや日中の様子を観察し、心身の状況を把握して、玩具を選択している。引継ぎは、遅番日誌や必要に応じて連絡票を用いて申し送り、保護者へ伝達を行っている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>食べる事の楽しさを基本に、無理なく食べられる配慮をしている</p> <p>栄養士や調理師はクラス巡回を行い、離乳食や外国の食文化の嗜好、宗教食、アレルギー食等、食事の喫食状況を把握し、献立の工夫につなげている。食べる意欲を大切に、毎月担任と年齢発達や姿に応じた食事について話し合っている。例えば、0歳児は、手づかみ食べができる食材の刻みの配慮や、1・2歳児は、自分で意欲を大切に、配膳された席に着く設定、食具の移行等、具体的な連携を図っている。苦手な食事は無理強いをせず、共食を楽しみ、気持ちが向くように促している。幼児は、座席やグループを変え、楽しんで食べる環境設定をしている。</p> <p>土に触れる栽培活動や食材に触れる経験を積みながら、食への意欲を育んでいる</p> <p>園庭の畑は、地域の菜園クラブや学童クラブとシェアをし、年長児は、野菜や芋の苗植え、水やりの世話をし収穫までを体験している。食育計画書に沿い、年齢に応じた方法で、食材に触れている。乳児から、とうもろこしの皮むきや葉野菜のちぎり等を手伝い、食材に親しんでいる。プランターや畑で栽培した作物を、クッキング保育したり、一匹の魚を解体する様子を見たり、食材と調理、食べるという、一連の食の営みを展開している。また、子どもが調理室のガラス戸から、調理の様子や音、湯気、匂い等、五感で見て触れる事で、食育を豊かに広げている。</p> <p>食育活動の様子を、多様なツールで保護者に発信している</p> <p>給食サンプルを玄関口に置き、保護者が献立や量を把握できるようにしている。夏以降は、子どもの食事風景をフォトフレームにして掲示している。クッキング保育や、旬の食材に触れる食育活動は、写真の掲示で見える化を図っている。更に、行事食や季節の献立、リクエスト給食等、特別感のある給食の様子や会話等、エピソードも伝えている。毎月の献立表や給食だよりの他に、年2~4回レシピ集や、過去のレシピを再編集して発行している。保育参加での給食試食、「今月の野菜の話」の掲示等、給食の理解や家庭で役立つ、多様な情報発信に努めている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもが健康や安全に関心を持ち、主体的に取り組めるように援助している</p> <p>看護師は、日々のクラス巡回や毎月の身体計測を通して、子どもの健康な状態の把握に努めている。子どもと積極的に関わり、体調の変化を察知し、子どもが身体の異変を発信できる事を大切にしている。感染症対策として、子どもに手洗いやうがいの指導を行い、予防の習慣化を図っている。怪我予防のために、遊びのルールやプールの約束事を知らせている。公園のブランコや滑り台の固定遊具で遊ぶ際は、順番を守る事や安全な使用方法を繰り返し伝えている。プールの活動前には、クラス毎に危険な行動と約束事を、理解できるように工夫して伝えている。</p> <p>子どもが身近な危険を回避できるよう、地域と連携した訓練を行っている</p> <p>毎月の避難訓練では、身を守る「おかしも」の行動を学び、防災頭巾やヘルメットを被り、机の下への一時避難を誘導している。消防隊員による訓練や、階上の学童クラブと合同避難訓練も実施している。警察署の協力により、横断歩道の渡り方や交通安全を学び、日頃の散歩等でも、交通ルールを自分で意識できるように促している。職員は、「港区危機管理基本マニュアル」に基づいた研修を受け、すべての時間帯で危機意識を持つように努めている。SIDS予防は、午睡チェック表で取り組んでいるが、顔色が確認できる明るさの確保の点で改善が望まれる。</p> <p>保護者と子どもの健康の維持ができるよう、情報の共有に努めている</p> <p>朝礼や昼礼で、子どもの怪我や感染症情報の記録を回覧し、共有を図っている。看護師は、感染症情報を把握し、最新情報を連絡アプリや全体掲示板、クラス掲示板で、保護者に伝えている。嘱託医による毎月の乳児健診や年2回の歯科検診、毎月の身体計測等、結果は速やかに健康カードに記録し、保護者に伝えている。嘱託医には病気や怪我の相談を行い、適切なサポートを受けている。また、慢性疾患や定期的な通院を要する配慮では、受診結果を保護者と共有して、健康維持に努めている。季節ごとの健康に関する注意等は、保健だよりで発信している。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>個々の家庭の状況を把握し、保護者の事情に寄り沿う支援に努めている</p> <p>朝夕は、玄関の広いエントランスを利用して、送迎時の保護者に挨拶や保育のエピソードを伝え、保護者との良好な関係づくりに努めている。保護者からの相談や要望は、担任だけでなく園長や副園長とも共有を図り、必要に応じて面談等を設け、保護者の心情に寄り添う支援に配慮している。プライバシーに配慮して場所を設定し、食事面や健康面では栄養士、看護師も同席して、専門職と連携した相談に応じ、速やかな対応をしている。更に、家族問題や子どもの成長発達等、園で区のカウンセリングが利用できる案内を、保護者会やポスターの掲示で伝えている。</p> <p>保護者間の交流や、保育内容に関する保護者への発信を大切にしている</p> <p>園では保護者に、保護者会や地域の行事案内や参加の声をかけを行い、保護者同士の交流を図っている。子どもが、地域の中で安全に育つために、大人の見守りや子育ての悩みを共有した連携を、大切に考えている。保護者会では、会場の席をサークルにして、和やかな雰囲気の中で交流ができる工夫をしている。更に、年間の保育計画や年齢発達の特徴を伝え、日々の活動の様子は、連絡アプリや写真を活用した保育ドキュメンテーションで発信している。幼児は、週案の予定を、保護者向けと子ども向けに掲示して、活動の見通しが持てるための工夫を図っている。</p> <p>保育参観や保育参加で、子どもを真ん中に子育ての育児支援に取り組んでいる</p> <p>保育参観や参加は、保護者の希望に応じて回数制限を無くし、両親で参加したいという声に応えている。乳児の両保護者は、離れた場所や変装等で、日頃の自然な姿を確認できるようにしている。幼児は、一緒に遊んだり活動に参加して、集団の様子や保育士の関わりを体験している。誕生児の保護者は誕生会の集会に参加し、一緒にお祝いする喜びを味わっている。個人面談では、事前に保護者と面談内容を確認し、保育士の関わりや子どもの年齢の発達の特徴を伝え、「今」大切にしたい育ちや具体的な働きかけを共有し、子育ての関係で育児支援につなげている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域のお祭りや催しに積極的に関わり、社会や文化に触れ生活を豊かにしている</p> <p>園では、毎年の恒例行事で、地域の神社や商店街のお祭りに参加して、地域の人々との触れ合いや、日本文化の伝承行事に親しむ経験をしている。近隣の神社のお祭りでは、4・5歳児が声を掛け合いながら、山車を曳いて歩く経験をしている。また、お正月には、隣の神社へ皆で参拝に出かけ、その意味やしきたり等に触れ、新年を迎える気持ちを大切にしている。商店会が主催する「かかし祭り」に、年長児が毎年参加している。保育園玄関には、15年前から制作したかかしの写真と表彰状が飾られ、年長児は自分たちの番だと、期待して意欲的に参加している。</p> <p>地域の人との出会いや、訪問する場所の役割や仕事を知ることで社会性を広げている</p> <p>園の玄関には、散歩マップが掲示されている。保育園は元区立小学校の校舎で運営され、地域に密着した各種活動機関との連携を継承している。子ども達は、日頃から散歩の行き帰りに出会う商店街の人と、挨拶を交わしたり買い物を経験したり、親しんで交流をしている。地域の図書館との交流では、図書の貸し出しを利用し、絵本に親しむ機会を増やしている。毎月、図書館の職員による絵本の読み聞かせや手遊びを、0歳児から楽しんでいる。また、消防署の訪問では、消防車を近くで見たり、消防隊員と触れ合うなど、社会生活への関心を広げている。</p> <p>地域の人々の協力を得て、子どもたちの活動を豊かなものにしている</p> <p>地域のボランティアや保育実習生を受け入れ、子ども達が慣れ親しんでいる。職員以外の人への関心を持ち、社会性を広げている。実習生や高校生等、コミュニケーションと一緒に遊んで貰える嬉しさで、世代間交流を楽しんでいる。また、マジックやコマ回し、けん玉等、法人が運営している学童クラブ職員が直接子どもに教えてくれたり、高度な技を見せて貰ったり、子どもは憧れて挑戦する気持ちを育てている。乳児は、地域の方から、ハンドベルの演奏を聴かせて貰う経験をしている。デジタルの音ではなく、生の音に触れる事で豊かな情操を育てている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	毎日の点検を含め、年度計画に基づき子どもたちの安心・安全の確保に取り組んでいる	
内容①	当園では、子どもたちの安心・安全な環境を確保するため、日常的な施設点検の実施のみならず、年間計画に基づき避難訓練を行っている。特に、ヒヤリハット事例の検討によって、速やかな情報共有を行い事故へのつながりを防いでいる。また、他の施設の事故事例を職員間で共有し報告することで、同様の事案が起きないように取り組んでいる。さらに、感染症講習会、救命救急講習会など、各種研修に参加し、知識、技能の習得に努めている。毎月開催の安全衛生委員会では、園内の安全体制の点検・確認を行い、職員全体への、安全意識への啓発を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもの姿を具体的に捉え、日々の情報共有を通じて保育の質向上に努めている	
内容②	子どもの日々の姿を丁寧に捉え、具体的なエピソードの共有が保育の質向上につながるのと考えるのもと、職員間の情報共有を重視している。毎朝、早番職員や看護師、管理職が集まり、その日の予定や保護者からの連絡事項、子ども一人ひとりの体調や気になる様子を確認し、朝礼ノートに記録している。昼礼では、当日の活動の中で見られた子どもの表情や行動、印象的な場面を具体的に共有し、今後の関わり方について職員間で認識をそろえている。日常的に具体的な情報共有を積み重ね、子どもの理解を深めることで、より質の高い保育実践へとつなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	子どもが栽培活動や食材に触れる経験をするなど、食の営みを知る食育を展開している	
内容③	食べる事の楽しさを基本に、栽培活動や調理保育、旬の食材に触れる等、多様な食育を展開している。調理前の野菜や魚等、自然の姿に触れる経験を大切にしている。園内の畑で、夏野菜やスイカ等、苗植えと水やりの世話、収穫までを経験したり、魚の解体を見たり、食材と調理、給食のつながりを体験的に学んでいる。また、イカの腹の中にアナゴを発見するなど、食の連鎖へも関心を広げている。廊下のガラス戸から、食材を刻む音や鍋の湯気、匂いなど感じ、親しんでいる。行事や季節の献立、リクエスト献立等では、食を軸に意欲や満足感を積み重ねている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者には園の方針や年間計画を年度初めの保護者会で説明し、さらに、園だよりなどで具体的に伝えている
	内容	園では、保育内容の透明性を高め、保護者との信頼関係を構築するため、丁寧な情報提供を行っている。年度初めの保護者会において年間計画を説明し、保護者が園の方針や年間の見通しを把握できるよう配慮している。園だよりやクラスだよりを通じて、保育活動の具体的な内容へつなげている。さらに、ドキュメンテーションの活用により、保護者にとって園での子どもの育ちを身近に感じられる工夫を行っている。これらの取り組みは、園と保護者が共に子どもの成長を見守り、理解し合うための有効な方法であり、情報共有の質を高める優れた実践である。
2	タイトル	見学時に園の成り立ちと「主体性を尊重する」理念を丁寧に説明し、質疑や個別相談で日常の保育を具体的に伝えている
	内容	見学時には、子どもの主体性や「やりたいことを尊重する」という保育理念について、園の成り立ちを丁寧に説明しており、保育の考え方を十分に理解してもらうことを重視している。質疑応答や個別相談を通じて日常の保育の様子を具体的に伝えることで、入園前から相互理解を深めており、見学を経て入園した家庭が園の方針に納得したうえで園生活を始められている。また、給食試食会や保育参加、誕生会への招待など、園生活を実際に見てもらう機会を積極的に設け、開かれた保育を実践している姿勢は、子どもと家庭を大切にする園の誠実さを示している。
3	タイトル	子ども同士が、生活や遊びの中で相互に理解を得られるように、子どもの状況に応じた援助と見守りを行い、共に育ち合う保育を目指している
	内容	園では、インクルーシブ保育を実践している。年長児は「いのちの授業」で「チクチク言葉、フワフワ言葉」を学び、日常の言葉遣いに気づきを促している。外国籍の子どもを受け入れでは、子ども同士が身振り手振りで伝え合い助け合う姿を見守り、状況に応じた援助をしている。言葉や感情の表出で支援を要する場面では、専門職の指導を受け、集団の中で安心して過ごせるよう、困り感の把握や気持ち落ち着く環境、視覚で理解できる工夫をしている。また、異年齢が自然に関わる環境設定も行い、憧れや優しく労わる気持ちの育ち合いを大切にしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域の連携関係を維持するため、運営方法や人材の確保に向けた取り組みについて検討していくことに期待したい
	内容	当園は元区立小学校の建物で運営し、地域の方々の強い思いを受けて現在に至っている。運営委員会には近隣町会からも出席を仰ぎ、園行事、地域行事での連携を図っている。しかしながら、地域行事においては中心的役割を担ってきた人材の高齢化が進み、行事の継続が困難になっている。また、職員が主体的に地域行事に関わるのが難しいため地域との連携体制の維持に課題が生じている。職員が関わりやすい体制の整備と保護者が積極的に関われるための検討がされることに期待したい。
2	タイトル	園の情報発信のあり方を再考し、地域施設と連携しながら、園の方針・特色を広く届けていくことに期待したい
	内容	これまで園の情報発信を主にホームページ及び見学者へのパンフレット配布を通じて行ってきた。今後、少子化が進行する中において、地域の子育て世帯に園の方針や保育の特色をより深く理解してもらうためには、情報発信の手法を広げていくことが重要である。そのため、地域の子ども関連施設や公営施設などと連携し、パンフレットの設置をはじめとした新たな広報の取り組みを進めることで、園の実践や大切にしている事をより多くの家庭に届け、地域に根差した園としての認知を高め、子育て支援拠点としての役割を一層発揮していくことに期待したい。
3	タイトル	乳児保育室の環境設定の充実と、保育指針の再確認を職員間で共有を図り、乳児期から遊びの主体性を育む環境作りに期待したい
	内容	0歳児は入所予約制度で、年度途中の新入園児の受け入れを行っている。独立した2つの保育室を、月齢に応じてグループに分け、緩やかな担当制をとり、子どもとの愛着関係を育む環境を作っている。乳児研修やわらべ歌研修の学びを、日常の生活や遊びの中に広げ、心身共に心地良く過ごす働きかけをしている。保育室はテラスや園庭につながり、散歩や戸外遊びの環境も整っている。一方で、子どもが自ら選んで手にする玩具の常設が少なく、コーナーのない広い空間のため、月齢や興味・関心に応じた玩具や、居場所となるコーナー設定等の検討が望まれる。